

「ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)」 に向かつて③

問合せ 環境課 ☎内線四五一

◆「ごみの半減」って？

町は第一目標として「ごみの半減」を目指します。では、半減とは実際どのようなことなのでしょう。

例えば、葉山町では現在、一人一日あたり約六百gの可燃ごみが排出されています（注：事業系が大半を占める直接搬入分を除く）。ごみを半減するには、これを半分の三百gに減らす必要があります。

◆環境課職員宅のごみ排出量

試みに、環境課職員五人の自宅でごみ量を一定期間量ってみました。

五世帯のうち、コンポスターで生ごみを処理しているのは一世帯で、他の四世帯は通常の分別ルールに従ってごみを分けています。

結果は驚くことに、五世帯すべてで、一人一日三百g以下またはそれに近い数値が記録されたのです。最も多い世帯で三三三g、最も少ない世帯では何と九十gに過ぎず、五世帯の平均は二二九gでした。

これは、ゼロ・ウェイスト自治体として輝かしい成果を出している上勝町や大木町に迫る水準の数値です。無論、ごみの排出量は各家庭の生活スタイルや世帯構成などによって

異なるため、一部の結果を一般化することはできません。

しかし、現在の分別ルールを守るだけでも、「ごみ半減」の水準に近づける可能性があることが分かります。

環境課では、町民の皆さんを対象としたモニター事業を通し、より客観的に減量の実現可能性を見極め、それを実現するための施策を組み立てていく考えです。

◆それでも残るごみは？

しかし、どんなに努力や工夫を重ねても、限りがあります。

例えば、ちり紙や紙おむつなどは、現段階では資源化できません。これらの資源化には、産業界の革新やリサイクル技術の発展が不可欠です。そして、その実現に向けて社会的な働きかけを行っていくことが、ゼロ・ウェイスト政策の最後のステージとなります。

技術は日々進歩を続けています。リサイクル技術やリサイクル可能な製品の開発が各方面で進められ、紙おむつから繊維分だけを分けて資源化する試みも一部で始められています。既に世界は、「すべてが資源化できる時代」に向けて、ゆっくりと、しかし着実に進んでいるのです。

～環境モニター 85人に聞きました～

ごみの分別・減量化に関するアンケート

町では毎年、環境モニター制度で環境関連のアンケートをしています。昨年度は、町内会推薦と一般公募による85人のモニターに、ごみのアンケートに答えていただきました。

今回の調査では、ごみを分別する際に「迷う点」「困る点」を中心に質問したところ、不燃系ごみと容器包装プラスチックに疑問が集中しました。特にプラスチック素材のごみが問題となっている現状が改めて浮き彫りになりました。その他、複合素材（金属とプラスチックが切り離せないものなど）のごみの捨て方についても、たくさん意見をいただきました。

「今後発信してほしい情報」についても、「迷いやすい品目の解説」が最上位に挙がりました。よりスムーズな分別に向けて、より具体的な情報提供に取り組んでいきます。

※調査結果の詳細は、町ホームページ上に掲載しています。

<http://www.town.hayama.lg.jp/topics2/topics01.html>

粗大ごみを出す前に…

美品はリサイクル掲示板で

年末大掃除の季節。

まだ使える家具や子ども用品は、リサイクル掲示板「葉山リサイクル」を通じて、必要としている人に譲りましょう。粗大ごみとして出すと、すべて破砕処理となってしまいます。

リサイクル掲示板は、役場1階ロビーか、町ホームページ上(<http://www.town.hayama.lg.jp/recycle/>)でご利用いただけます（利用者IDやパスワードは必要ありません）。

※登録の際は、写真をつけるとイメージが伝わりやすくなります。

葉山町環境審議会を開催

次回開催を1月下旬に予定しています。

傍聴を希望する場合は、1月広報で日程を確認してください。また、審議会に関する情報は、町ホームページ環境課に掲載しますので詳細をご確認ください。

問合せ 環境課 ☎内線453

障害福祉に関する

アンケート調査の結果

町では、「障害者計画」と「障害福祉計画」の改定に先立ち、今年八月に障害のある人の生活状況や意見を把握するためのアンケート調査をしました。

調査は、障害者手帳や自立支援医療（精神通院）受給者証を持つすべての人を対象にしたものと、一般町民を対象にしたものの二種類です。

結果は計画策定の資料として反映し、福祉課窓口またはホームページで紹介します。

ご協力ありがとうございました。

問合せ 福祉課 ☎内線二三四

発送・回収数

対象	発送数	有効回収	回収率
全体	1,517	838	55.2%
身体障害者手帳所持者	857	504	58.8%
療育手帳所持者	110	65	59.0%
精神障害者保健福祉手帳所持者	115	67	58.3%
自立支援医療(精神通院)受給者	135	59	43.7%
一般町民	300	143	47.7%

◆調査の概要

調査対象

- ① 障害のある人：町内在住の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している人と、自立支援医療（精神通院）受給者一、二一七人
- ② 一般町民：十八歳以上の町内在住者から無作為抽出した三百人

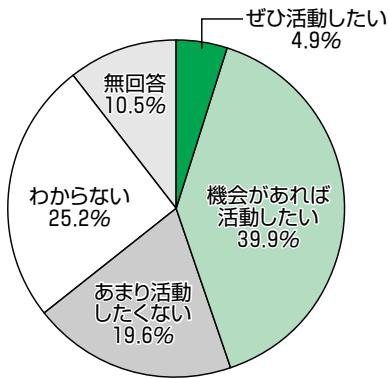
調査方法 郵便で配布・回収

調査期間 八月十五日～二十九日

アンケート調査回収状況

障害者六九五五人(回収率五七・一%)と一般町民一四三人(同四七・七%)の合計八三八人(同五五・二%)

▼今後ボランティア活動で(一般町民)



▼葉山町で今後特に充実すべきこと(障害のある人)

